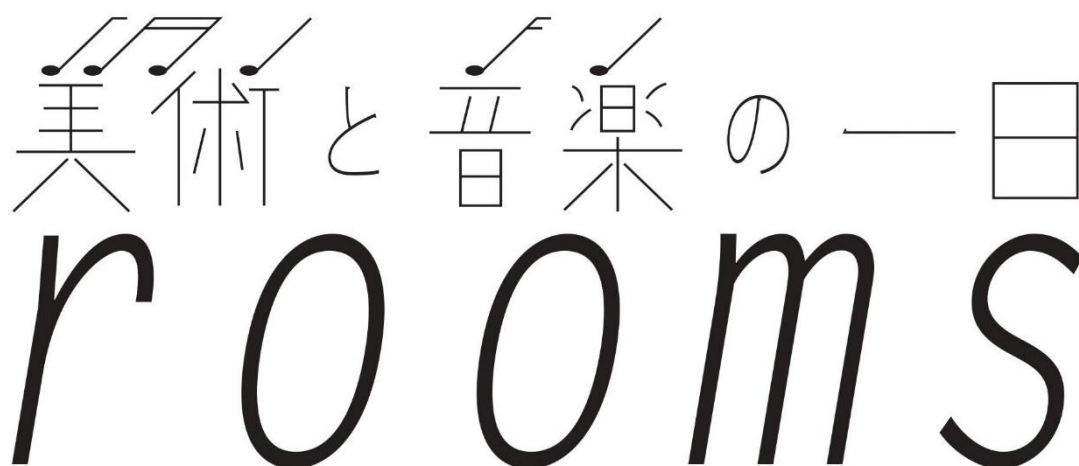


## PRESS RELEASE



2016.3.5 sat. 13:00 → 19:00

美術と音楽の一日「rooms」は、サウンドアーティストの藤本由紀夫、映像作家の林 勇気と音楽家の米子匡司、サウンドインスタレーションの原 摩利彦、ミュージシャンの haruka nakamura、西森千明、Polar M といった、国内外で活躍する作家やアーティストの作品と併せ当館コレクション作品を展示し、視覚や聴覚といった感覚の領域にとらわれることのない体験を試みます。

音楽と美術作品をタイムラインに沿って展開する本展は、時間とともに変化し動き続ける作品を鑑賞するという、普段の美術館の過ごし方とは違った体験となるでしょう。

Bihaku Room / びはくルーム

art / music exhibition

美術と音楽の一日「rooms」

開催日	2016年3月5日(土)
開館時間	13:00-19:00
会場	芦屋市立美術博物館
観覧料	一般 1,200 円 (※予約価格 1,000 円)、中学生以下無料 ※3月4日(金)までに電話または email で予約をしていただくと予約価格で入館していただけます。 (電話) 0797-38-5432 (e-mail) rooms@ashiya-city-museum.jp → 件名「3/5rooms」とし、氏名(フリガナ)、人数、連絡先を明記

主催	芦屋市立美術博物館
共催	night cruising
後援	兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK 神戸放送局、FM802
協力	sonihouse、ZBO オーケストラ

## PRESS RELEASE

参加  
アーティスト

## 林 勇気 | Yuki HAYASHI



©表恒匡

映像作家。兵庫在住。1997年より映像作品の制作を始める。国内外の美術展や映画祭に出品。自身で撮影した膨大な量の写真をコンピュータに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーションを作る。その制作のプロセスと映像イメージは、デジタルメディアやインターネットを介しておこなわれる現代的なコミュニケーションや記憶のあり方を想起させる。主な展覧会に 2011年「あること being/something」(兵庫県立美術館)、「HUMAN FRAMES」(Kunst im Tunnel / ドイツ、Substation/シンガポール)、2013年「あなたがほしい i want you」(WELTKUNSTZIMMER / ドイツ)、2014年「窓の外、恋の旅 -風景と表現」(芦屋市立美術館 / 兵庫)、「HOME PARTY\_2」(みずのき美術館 / 京都)、2015年「アンカラ国際映画祭」(トルコ) など。  
<http://kanyukuyuki.tumblr.com>

## 米子 匡司 | Tadashi YONAGO



音楽家。大阪在住。トロンボーン、ピアノ奏者。プログラマ。楽器と電気やコンピュータを使って音楽を演奏するほか、その場所の環境を含んだインスタレーションとしても制作。音楽活動のほか近年の主な活動としては、自分や友人の作った物を販売するための自動販売機の製作とストリートへの設置、大阪・安治川沿いの倉庫を使った住居兼オープンスペース FLOAT の運営、人が見聞きした事とそれについて考えた事を書くための紙とウェブの雑誌『余所見』の発刊など。グループワークとして電子即興アンサンブル Sjq(cubicmusic/HEADZ)、および Sjq++のメンバーとしても活動。同グループにて 2013年アルスエレクトロニカ・デジタルミュージック部門優秀賞を受賞。主な個展に『街の道具・その他のこと』(2011、梅香堂[大阪])、近年参加した展覧会は『OPEN GATE』(2015、Hin Bus Depot Art Centre[マレーシア])など。 <http://www.chochopin.net/>

## 原 摩利彦 | Marihiko HARA



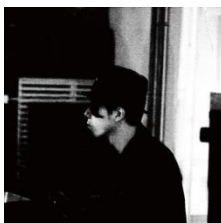
作曲家。京都在住。京都大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科修士課程中退。「静寂の中の強さ」をテーマに、エレクトリックミュージックから器楽曲まで作曲活動を行う。舞台や映像のための作曲も精力的に行い、ダミアン・ジャレ+名和晃平『Vessel』、『東京キャラバン』(総合演出:野田秀樹)、白井剛+キム・ソンヨン『原色衝動』(写真:荒木経惟)、寒川裕人『sansui』等の音楽を担当。またダムタイプ高谷史郎プロジェクトメンバーとして、パフォーマンス作品『ST/LL』(音楽:坂本龍一、南琢也と共同制作)、『CHROMA』に参加している。 <http://www.marihkohara.com>

## 藤本由紀夫 Yukio FUJIMOTO |



サウンドアーティスト。大阪在住。大阪芸術大学音楽学科卒。80年代半ばより日常のなかの「音」に着目した装置、サウンド・オブジェを制作。インスタレーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて、空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。主な個展に 1997年から 2006年まで 10年間毎年 1日のみ開催された展覧会「美術館の遠足」(西宮市大谷記念美術館 / 兵庫)、2001「四次元の読書」(CCGA 現代グラフィックアートセンター / 福島)、2006年「ここ、そして、そこ」(名古屋市美術館 / 愛知)、2007年「ECHO - 潜在的音響」(広島市現代美術館 / 広島)、「哲学的玩具」(西宮市大谷記念美術館 / 兵庫)、「+/-」(国立国際美術館 / 大阪)、「関係」(和歌山県立近代美術館)など。主なグループ展に 2001年「第49回ヴェニス・ビエンナーレ」、2007年「第52回ヴェニス・ビエンナーレ」(ヴェニス)など。

## haruka nakamura |



音楽家。東京在住。少年期に鍵盤、ギターを独学で学び、2006年より本格的に活動を開始。これまでに『grace』(2008/Schole)、『twilight』(2010/Kitchen.Label)、『MELODICA』(2013/Hydeout Productions)というアルバム 3部作を発表。また、小瀬村晶とのコラボレーションアルバム『After glow』(2007/Schole)、Janis Crunch との『12 & 1 song』(2011/Kitchen.Label)を発表。また、流動的なメンバー編成の即興演奏プロジェクト haruka nakamura LABO や、ギタリスト AOKI、hayato とのデュオでの活動も行う。その他、support surface、evam eva、mame などのアパレルブランドのショーや展示会の音楽なども手掛けている。 <http://www.harukanakamura.com/>

## PRESS RELEASE

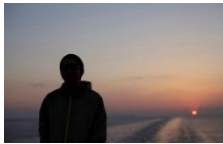
## 西森千明 | Chiaki NISHIMORI



ピアニスト／シンガー・ソングライター。京都在住。2014年3月、2ndフルアルバム「かけがえない」を発表。田辺玄(WATERWATER CAMEL)を録音・ミックス・マスタリングにむかえ、古い木造の校舎で録音された。鳥の声、樹々の揺れ、床のきしみなど、近から遠くまでさまざまに響き漂う音に、柔らかくも芯の通ったピアノの旋律と、木管楽器のような歌声が溶けていく。風景や時間の移り変わりに寄り添うように、悠々と奏でられた音楽。生演奏はいわゆるピアノの弾き語りとは一線を画し、その場の空気に溶け込むたおやかで自由な演奏と、言葉のベールをまとった声音で、「そこに居るだけで心が開いていく、まさに自然の豊かさそのものの音楽」との賞賛を受ける。どこか遠くで響いているかのような歌声とピアノの音色が、風や光のように、空間に、聴く人ひとりひとりにふりそぐ。心もからだも一緒になって聴くことができる、根源的な音楽を紡ぐ音楽家。

<http://www.chiaki-nishimori.info>

## Polar M |



ミュージシャン／ギタリスト。京都在住。エレクトリック・ギターを中心に、繊細ながらも強い情感をもったサウンドスケープを展開。深く静かな、そして壮大な世界を追求する。

これまでにアルバム『Hope Goes On』(2014)、『Nothern Birds』(2011)等を発表。京都芸術センターやドイツ文化センターにてライブを行い、「Icon Ceramic Festival」(韓国・利川)に招聘され、野外演奏。マレーシア公演や無声映画『月世界旅行』上映ライブなども行った。また映像作家・林勇気や宮永亮の作品の音楽を担当。音楽家・原 摩利彦と共作アルバム『Beyond』(2013)をリリース。振付家ロサム・プルテンシャド・ジュニアのダンス作品の音楽を共同制作。ユニット「omni sight」のサポートギターも務め、「サウンド&レコーディング」誌にソフトウェア Ableton Live に関する執筆をするなど幅広く活動する。 <http://www.polarm.net>

## 村上三郎 | Saburo MURAKAMI

作品出展  
のみ

美術家。兵庫生まれ。1925—1996年。1949年伊藤継郎に師事、翌年より新制作派展に出品。1952年、新制作に出品していた白髪一雄、金山明らと「O会」を結成。翌年吉原治良と出合い1955年具体美術協会に参加。ハトロン紙を袋貼りにした屏風を身体でつき破る作品によって新境地を開く。具体中期には激烈なアクション・ペインティングを発表するが、解散後は会期中一言も発しない《無言》に代表される能動的表現を放棄したかのような作品群を発表した。

本展では、生前行った〈紙破り〉の記録映像を上映する。

## 小杉武久 | Takehisa KOSUGI

作品出展  
のみ

音楽家。東京生まれ。1957年東京芸術大学音楽学部楽理科入学。1960年学友らと世界で最初の集団即興演奏を行うグループ「グループ・音楽」を結成。1962年よりイベント作品が「フルクサス」のメンバーによって、欧米各地で演奏され始める。1969年「タージ・マハル旅行団」を結成、国内外のロック・フェスティバル、現代音楽祭などに参加。1977年「マース・カニングハム舞踏団」の専属作曲家・演奏家に就任。個人としても世界各地でコンサートを開催するとともに、サウンド・インスタレーション作品を発表。

本展では当館所蔵作品《Metal Interspersion》(1991年)を展示する。

## PRESS RELEASE

## 共 催

night cruising

京都を拠点とするイベント&レーベル。2006年より数々の国内外アーティストを招き、クラブ、カフェ、寺院、ホールなど様々な会場でイベントをオーガナイズ。海外アーティストのジャパン・ツアーも含む数多くの主宰イベントは、地元京都だけでなく全国各地でも開催。活動開始から6年を経た2012年から、イベントと同名のレーベルも始動。第1作目のコンピレーション・アルバム『tone』を皮切りに、京都の気鋭のアーティスト達や、欧州のアーティストの作品などのリリースを続け、イベントとレーベルを両軸に活動を展開中。 <http://nightcruising.jp/>

## 協 力

sonihouse

鶴林万平(音響設計・製作)と長谷川アンナ(グラフィックデザイン)が主宰し、2007年より奈良で活動を開始。スピーカーを媒体に音と空間、そして聴き手を有機的に結び付け、そこに豊かな音楽的循環を生むことをコンセプトに活動を続ける。  
<http://www.sonihouse.net/>

ZBO オーケストラ

2013年10月、藤本由紀夫+コンテンポラリー・ミュージック・ユニット.es (ドットエス/橋本孝之 & sara) + ギャラリーノマルにより生まれた、アートファン、音楽ファン、アーティスト、ギャラリーのコラボレーションによって成立する継続的なプロジェクト。亜鉛メッキ鋼板で作られた OBAKETSU (オバケツ)と藤本選曲の“オンチなオルゴール”を組み合わせた音の鳴るアート作品 ZBO (Zinc Buckets Orchestra)の所有者が団員となるオーケストラ。アート×サウンドの実験的なワークショップやコンサート活動を行っている。 <http://www.nomart.co.jp/zbo/>

## 出 店

Apple の発音

パンとお話「Apple の発音」は 2008年より大阪市平野区で開店。それぞれのシーンや、特定の人物をイメージしたパンを、旬の物やこだわりの材料をおりませで、自家製酵母・イーストを使って作る。パンには「名前」と「お話」があるのも特徴。たとえばキューブ型の食パンは「箱レター」など。 <http://applenohatsuon.blogspot.jp/>

食堂 souffle

心安まる時間を提供できるようなお店になることを目標に、京都の季節のお野菜や滋賀県高島のお米を使い、愛情たっぷり心を込めてお昼の定食、カフェタイムのお茶、夜のごちそうを作っている、京都市の西門町にある小さな食堂。  
<http://souffle-shokudo.com>

GRAM COFFEE BREWERS

神戸を拠点にした移動式のコーヒースタンド。「おいしいコーヒーを通じて、笑顔と喜びが生まれる“場”をつくりたい」その想いを胸に、今日も GRAM COFFEE BREWERS のコーヒーは生まれている。 <http://gramcoffeebrewers.com/>

## Bihaku Room／びはくルーム

芦屋市立美術館が主催する教育普及プログラムの一環として、2014年よりスタート。現代美術作家が講師となり、美術の面白さ・楽しさ・難しさを発見し、美術に親しんでいただく場となるよう様々なイベントを開催しています。  
今回は美術と音楽の1日だけの展覧会として「rooms」を開催します。

## 問い合わせ先

【企画内容に関して】 大槻 晃実 TEL:0797-23-2666(学芸直通)

【画像貸出など広報について】 中村 藍子 TEL:0797-38-5432(代表)、メール:nakamura-aiko@shopro.co.jp

※このプレスリリースに掲載している画像は全てお貸し出しできます。ご購入の際はご希望の画像をお知らせください。

## 芦屋市立美術館

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25

◇ホームページ:<http://ashiya-museum.jp/>

◇ツイッター:@ashiyabihaku

◇フェイスブック:芦屋市立美術館